



●高石散策（羽衣コース）

日露友好の像

日露戦争は、両国に多くの戦死者を出した。しかし両国は、戦争捕虜を博愛処遇するハーグ国際条約を守り、明治政府、国民は、日本に連れてこられたロシア人捕虜をあたたかく迎え、ここ浜寺一帯から泉大津市にかけて捕虜収容所が造られ3万2000人余の捕虜を収容した。所内には信仰の自由を認めて教会、パン工場が置かれた。この像は、日露戦争100年を迎えるにあたり「泉州21世紀協会」を始め多くの有志によって2002年5月21日に建てられた。横にある碑には、小泉首相・プーチン大統領の文章が刻まれている。

大雄寺の碑

大雄寺は、南北朝時代の正平年間（1346～1367年）に南朝の後村上天皇の勅願により三光国師（孤峰覚明）が建てた禅宗寺院である。周囲には集落ができ、当時、泉州における南朝方の拠点として重要な寺院であった。その後、戦火や戦国時代の争乱で姿を消していった。

この公園内に立つ記念碑は、大正初めに地元有志によって建てられた。2001年から府道高石北線の建設に先立つ発掘調査が大阪府教育委員会により行われ、鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）の寺院、集落跡が発見され、当時の生活用具が大量に出土している。

高石神社

高石神社は、高師浜4丁目1番地に所在し、平安時代に編纂された「延喜式」神名帳に記載されている大鳥郡内の「高石神社」と考えられる。

現在の祭神は、スクナヒコノミヨウジン アマテラスオオミカミ クマノ ザサンジン「小彦名神・天照皇大神・熊野坐三社・旧郷社」を祭る。創建・由来は不明。江戸初期には「天神社」絵図に記入され、祭神不詳などと文献には記載されているが、江戸後期に刊行された「和泉名所図会」に「高志の祖先、わに王仁」を祭ると記されている。「王仁」とは、奈良時代の高僧行基の父祖である高志氏の



日露友好の像

（浜寺公園内、国際交流センター前 南海本線羽衣駅下車10分）



大雄寺の碑
（伽羅橋公園内、高師浜1丁目
南海高師浜線伽羅駅下車1分）



式内社 高石神社
（高師浜1丁目 南海高師浜線
高師浜駅下車5分）

祖先であると言われているが、その高志氏の居住地が高石であるという説もある。確かに高志と高石はともに「たかし」と読める。また、高石神社の東方、高師浜1～3丁目一帯は江戸時代「大工村」と呼ばれる大工職を世襲する村があり、残された文書には行基依頼の由緒が書かれている。このことから、「大工村」で「氏神」視された高石神社の祭神として「王仁」という名が出てきたとも考えられる。

現在では、特に「王仁」に関する祭事も無いが、境内の松林と木々はかつての海岸の面影を残し、市民に親しまれている。

高石市内には、多くの史跡・社寺がありますが、今回は、南海本線羽衣駅を下車し浜寺公園内を歩いて南海高師浜線高師浜駅まで散歩コースによい3ヵ所を紹介します。所要時間は約2時間です。



▼お問い合わせ先▼

高石市教育委員会生涯学習課

TEL 072-265-1001（内線 2742）

郷土資料室

TEL 072-263-1090